

埼玉アーツシアター通信

SAITAMA
ARTS THEATER
PRESS
VOL.75

2018.6-7

世界ゴールド祭

伊藤郁女

大塚直哉

夏休みオーケストランド!

ベルリン・フィル ブラス・トリオ



👓
Tribute to 蜷川幸雄

2
北村明子
(シス・カンパニー)

プロデューサーと 演出家の丁々発止



きたむら・あきこ

2008年まで「NODA-MAP」プロデューサーとして全作品を制作。2002年から独自の舞台制作を開始し、数多くの舞台をプロデュース。2016年、長年の舞台制作の成果に対して紀伊國屋演劇賞五十回記念特別賞制作者賞を受賞した。

取材・文 ● 市川安紀

“世界の”と冠を被せられ、傍目には演劇界の帝王とでも見えたかもしれない。けれど蜷川幸雄さんは聞く耳を持たない裸の王様ではなかった。膨大な演出作の中で、数は少ないが印象深い2作をプロデュースしたのがシス・カンパニーの北村明子さんだ。1本目は2012年『騒音歌舞伎ボクの四谷怪談』。若き日の橋本治による破天荒な戯曲で、歌い踊る伊右衛門やお岩が原色の白日夢のように強烈だった。長年の親交はあれど仕事としては初めて接する演出家を「あんなにやりやすい方はいなかった」と語る北村さんには、忘れられない出来事がある。

「最終稽古を見て(上演時間が)『20分長い』とカットを頼むと、『そうだね、切ろう』と仰ったんです。その場で各々が考えた台本のカット案は1行を除いて全部一致。『気が合うねえ』って(笑)。稽古場で芝居をずっと見てきたプロデューサーを信頼してくださった。快く20分もカットする演出家はそういません」

そうかと思えば「昨日と真逆のことを言われるのも日常茶飯事」と北村さんは笑う。「それが単なるワガママにならないのは彼がクリエイターとして天才だから。予想を遥かに超える芝

居が立ち上がる様にワクワクさせられ通してでした」。ハッキリと物申すプロデューサーとの仕事を、蜷川さん自身も楽しんでいたに違いない。

2年後には清水邦夫『火のようにさみしい姉がいて』を上演。清水作品独特の不可思議な時空でのリアリティを俳優陣が模索する中、稽古ではベテランにも厳しいダメ出しが飛んだ。

「でも強く言った後にはフォローを欠かさない。2本で10本分近い濃さのことを学びました」

実は3本目のタッグも決まっていた。イタリアの詩人ダヌンツィオの小品2作を平幹二郎主演で同時に上演する予定だった。だが2016年、両巨星は相次いで旅立ってしまう。「蜷川さんの棺に台本を入れたら、その後すぐに平さんまで。今ごろは向こうで稽古しているでしょう」

今年、北村さんは蜷川さんの代表作の一つ、秋元松代作『近松心中物語』をいのうえひでのり演出で上演した。生前の蜷川さんから許可を得ての挑戦であり、北村さんには「戯曲は様々な人が演出してこそ生きる」という信念がある。申し出を快諾した蜷川さんが、後から「自分もまたやりたくなった」と言い出したというのも、貪欲なクリエイター魂を感じさせて興味深い。



ロックミュージカル『騒音歌舞伎「ボクの四谷怪談」』左から佐藤隆太、尾上松也 Photo◎谷古宇正彦 写真提供◎シス・カンパニー/Bunkamura



世界ゴールド祭2018
9.22(土)~10.8(月・祝) 彩の国さいたま芸術劇場 ほか

Photo◎Jane Hobson

CONTENTS

4 FESTIVAL > 世界ゴールド祭2018

7 PLAY > オックスフォード大学演劇協会(OUDS)来日公演
『十二夜』

8 DANCE > フィリップ・ドゥックフレ/DCA
『新作短編集(2017)-Nouvelles Pièces Courtes』

10 DANCE > 伊藤郁女
『私は言葉を信じないので踊る』

12 MUSIC > 光の庭プロムナード・コンサート &
大塚直哉レクチャー・コンサート

14 MUSIC > 埼玉会館ファミリー・クラシック
夏休みオーケストラバンド!

16 MUSIC > ベルリン・フィル ブラス・トリオ

18 KABUKI > 松竹大歌舞伎

19 REVIEW

20 イベントカレンダー/チケットインフォメーション/彩の国シネマスタジオ

23 INFORMATION

24 COLUMN > 林家彦いちの『一歩外へ』

編集◎川添史子、榎原律子 表紙画◎波多野光 デザイン◎GOAT

©公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団 Published on 1.June.2018 All Rights Reserved by Saitama Arts Foundation
※掲載情報は、2018年5月15日現在のものです。公演は追加および一部変更される場合がありますので、ご了承ください。

これまでも、演劇を通して《高齢者が輝く未来》の可能性を探ってきた彩の国さいたま芸術劇場が、ついに高齢者舞台芸術にフォーカスした国際フェスティバル「世界ゴールド祭2018」を開催！ 国内外の高齢者表現を追求するパフォーマンスが埼玉に集結し、彩の国さいたま芸術劇場を主会場に、さらには市街を使った野外にと、エネルギッシュな高齢者たちの芸術が横溢する。いまだかつてないユニークな祭典、その全貌を紹介しよう。

まずは、60歳以上を対象とした彩の国さいたま芸術劇場の芸術クラブ活動「ゴールド・アーツ・クラブ」による演劇公演だ。約1,600名の高齢者が出演し話題となった「1万人のゴールド・シアター2016」の成果をさらに発展させるべく発足した同クラブの登録者はなんと1,000名超！ 演劇をはじめとしたさまざまな舞台芸術プログラムに親しむ意欲満々のメンバーが、ノゾ工征爾（脚本・演出）のもとでモリエールの戯曲「病は気から」をもとにした作品に挑む。2月に行われたワークショップ成果発表では、大きなベッドをかたどった美術の上で“生と病氣と死”の物語を、歌い、踊り、思いきり楽しそうに演じた彼らだけに、さ

らにパワーアップする本公演にも期待が高まる。

海外からの高齢者パフォーマンス

海外からもさまざまな集団が来日する。まずは、ヨーロッパを代表するダンス専門劇場、英国サドラーズ・ウェルズ劇場の高齢者ダンス・カンパニー「カンパニー・オブ・エルダース」によるダンス公演。コンテンポラリーを中心とした先鋭的な劇場の企画だけに、ダンス界をリードする振付家に作品を委嘱するなど、芸術性の高い舞台を多く生み出している。2009年にBBCで紹介されたことをきっかけに存在が一気に知られ、国内外で活躍している彼らのアーティスト的なダンスは必見だ。

シンガポールからやって来るのは、地域生活に根ざし、高齢者の心情を映した演劇をつくる高齢者演劇グループ「グロウワーズ・ドラマ・グループ」。多くの作品は多民族国家シンガポールの特色を反映して多言語上演で行われるそうで、今回も60年代のシンガポールを舞台とした、アイデンティティーを探るような作品が上陸する。

オーストラリア・タスマニアを拠点に活動している「マチュア・アーティスト・ダン



サドラーズ・ウェルズ劇場 カンパニー・オブ・エルダース (英国)

Photo © Ellie Kurtz



マチュア・アーティスト・ダンス・エクスペリエンス (オーストラリア)

Photo © Terence Munday

ス・エクスペリエンス」は、10年近い活動歴のある高齢者ダンス・グループ。本国における高齢者ダンスの代表的存在で、地域を越えた活動を行っている。今回上演されるのは、世界的に有名な振付家グレアム・マーフィーによる代表作『フロック』。ある高齢女性が語る記憶を生き生きと描いた作品からは、オリジナリティー溢れる世界が立ち上がる。

埼玉オリジナルが誕生！

「世界ゴールド祭2018」では、彩の国さいたま芸術劇場の高齢者劇団「さいたまゴールド・シアター」とのコラボレーションによる2つの作品も誕生する。

まずは、英国ロンドンで地域に根付いた活動を長年続けている芸術団体「エンテレキー・アーツ」との共同作品『BED』。老人が横たわるベッドが市街地に突如出現し、通りすがりの街の人たちと出会い、会話し、彼らの人生を知っていくというユニークなアートパフォーマンスだ。演出家デービッド・スレイターが埼玉に1カ月滞在し、精鋭のゴールド・メンバーたちと、日本の

高齢者の思い、社会状況を反映させた作品をつくり出す。

浦和の商店街を舞台につくる「徘徊演劇」を演出するのは、岡山県で演劇を創作している、俳優・介護福祉士の菅原直樹。彼が2015年に発表した『よみちにひはくれない』は、認知症の妻と暮らす、当時88歳の男性とつくりあげた作品で、観客と商店街をめぐるながら繰り広げる、若者と老人の物語だ。今回は浦和の街でパフォーマンスを実施する予定で、こちらは、オーディションで選ばれたゴールド・メンバーに加え、「さいたまネクスト・シアター」からも参加する。菅原は「〈徘徊とは何かということ〉をより考える作品にしたい」と語り、ただ商店街を歩くだけでなく、変化していく街の風景に若者と老人の記憶を重ねながら展開する作品となりそうだ。

その他、シンポジウムや交流会、アーティストによるトークショー、ワークショップなど、盛りだくさんの内容を予定。この秋は、高齢者が見せる革新的な表現世界に魅了されそうだ。

世界各地のパワフルな高齢者が埼玉に集結。

文 ● 川添史子

「世界ゴールド祭2018」開催！



さいたまゴールド・シアター × デービッド・スレイター (英国)



グロウワーズ・ドラマ・グループ (シンガポール)



さいたまゴールド・シアター × 菅原直樹 (日本)



「世界ゴールド祭2018」

Photo©宮川舞子

日程

9/22 土	9/23 日・祝	9/24 月・休	9/25 火	9/26 水	9/27 木	9/28 金	9/29 土	9/30 日	10/1 月	10/2 火	10/3 水	10/4 木	10/5 金	10/6 土	10/7 日	10/8 月・祝
さいたまゴールド・シアター 『よみちにひはくれない』						さいたまゴールド・シアター 『BED』※						ゴールド・アーツ・クラブ				
カンパニー・オブ・エルダース 〈ワークショップ 9/23・24〉						マチュア・アーティスト・ダンス・エクスペリエンス						グロウワーズ・ドラマ・グループ				
			ネオン・ダンス ワークショップ						シンポジウム							
									交流会							

さいたまゴールド・シアター

演劇

9.22(土)~24(月・休)
さいたま市(浦和)市街地
徘徊演劇『よみちにひはくれない』
浦和バージョン
[作・演出] 菅原直樹
[出演] さいたまゴールド・シアター、さいたまネクスト・シアター
チケット発売日 一般 7.8(日) メンバーズ 7.7(土)

演劇

9.29(土)~30(日)(予定) 入場無料
さいたま市 市街地
『BED』
[演出] デービッド・スレイター
[出演] さいたまゴールド・シアター
※日程が変更になる可能性があります。予めご了承ください。

ゴールド・アーツ・クラブ

演劇

9.29(土)・30(日)、10.3(水)~8(月・祝)
彩の国さいたま芸術劇場 大ホール
『病は気から』
[原作] モリエール [脚本・演出] ノゾエ征爾
[出演] ゴールド・アーツ・クラブ ほか
チケット発売日 一般・メンバーズ 8月(予定)

海外の高齢者カンパニーによる公演

ダンス

9.22(土)~24(月・休)
彩の国さいたま芸術劇場 小ホール
サドラーズ・ウェルズ劇場
カンパニー・オブ・エルダース
『新作2018』(英国)
チケット発売日 一般 7.8(日) メンバーズ 7.7(土)
(同時開催)
カンパニー・オブ・エルダース ワークショップ
※23日(日)・24日(月・休)開演前に情報プラザでワークショップを行います。
どなたでも参加できるプログラムです。

ダンス

9.28(金)~30(日)
彩の国さいたま芸術劇場 小ホール
マチュア・アーティスト・ダンス・エクスペリエンス
『フロック』(オーストラリア)
チケット発売日 一般 7.8(日) メンバーズ 7.7(土)

演劇

10.4(木)~6(土)
彩の国さいたま芸術劇場 小ホール
グロウワーズ・ドラマ・グループ
『カンボン・チュンバダ』(シンガポール)
チケット発売日 一般 7.8(日) メンバーズ 7.7(土)

シンポジウム

9.29(土)~30(日) 入場無料
彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール

ワークショップ

ダンス
9.26(水)~28(金)
彩の国さいたま芸術劇場 大練習室
ネオン・ダンス ワークショップ(英国)

交流会

9.29(土)
彩の国さいたま芸術劇場 情報プラザ

※公演・シンポジウム・ワークショップ・交流会の詳細はチラシ・財団ホームページでお知らせいたします。6月末公開(予定)。

8月、シェイクスピアの本場・英国で歴史と伝統を誇るスチューデント・ドラマ・ソサエティ、オックスフォード大学演劇協会(OUDS)による、2年ぶりの来日公演が行われる。

名門オックスフォード大学の学生によって構成されるOUDSは1885年に創設され、100年以上にわたり若い才能を育み続けている由緒ある学生劇団。『ハリー・ポッター・シリーズ』などで知られる名優マギー・スミス、“Mr.ビーン”ことローワン・アトキンソン、『ラブ・アクチュアリー』『ブリジット・ジョーンズの日記』といったラブ・コメディに欠かせない俳優の一人ヒュー・グラントのほか、最近では、『博士と彼女のセオリー』に出演し、アカデミー賞主演女優賞にノミネートを果たしたフェリシティ・ジョーンズなど、英国演劇界、映画界をはじめ世界で活躍するスターたちを輩出している。

今回来日する作品は、思い込みが引き起こす恋のドタバタを描いたシェイクスピアの傑作喜劇『十二夜』。若々しい演技、現代的な感性、原語上演ならではの美しいセリフの響きに期待しよう。

もつれ合う恋の糸で紡がれる
ロマンティックコメディ

オックスフォード大学演劇協会(OUDS) 来日公演 『十二夜』



2016年公演『夏の夜の夢』 Photo©引地信彦

STORY

双子の兄妹セバスチャンとヴァイオラは船旅の途中、乗っていた船が難破。運良く浜に流れ着いたヴァイオラは兄が死んだと思い込み、身を守るために兄そっくりに男装して公爵オーシーノーに小姓として仕える。ある日ヴァイオラはオーシーノーの想い人オリヴィアのもとへ、恋の使者として主人の愛を伝えるよう命じられる。ひそかに公爵に淡い恋心を抱くようになっていたため、心を痛めながら小姓としての務めを果たすヴァイオラ。ところがオリヴィアは、男装したヴァイオラに恋をしてしまう。しかも執事マルヴォーリオもオリヴィアに恋しており、恋の糸はもつれにもつれる。そんな時、生きていた双子の兄セバスチャンがこの町に現れ……。男女取り違えの大混乱、報われない恋と喜劇的な三角関係。それぞれの恋の行方は……。



2015年公演『ロミオとジュリエット』 Photo©引地信彦

チケット販売中

オックスフォード大学演劇協会(OUDS) 来日公演 『十二夜』

8.5(日)13:30 英語上演/日本語字幕付き
彩の国さいたま芸術劇場 小ホール
[作] W.シェイクスピア
[演出・出演] オックスフォード大学演劇協会(OUDS)
チケット(税込) 全席自由(整理番号付)
一般2,500円 U-25* 2,000円 高校生以下1,000円
*U-25チケットは公演時、25歳以下の方が対象です。
入場時に身分証明書を提示してください。



Photo©Eline Ros

Philippe Decouflé

日本への思いと愛着のワンダーランド

フィリップ・ドゥクフレ/DCA

『新作短編集(2017) - Nouvelles Pièces Courtes』

踊りと映像、サーカスの技術を組み合わせる唯一無二の世界観を創りあげる、ダンス界の魔術師フィリップ・ドゥクフレ。今回の「新作短編集」、最後を飾る短編は日本へのオマージュで、あたたかも日本へのラブレターだ。さまざまな国で上演されたこの作品が日本に上陸するにあたり、本人にコメントをもらった。

——本作は6つの短編から構成されていますが、それぞれの特徴を紹介していただけますか。

最初のDuo (デュオ) はダンサーありきの作品。このダンサー二人の特技、つまり踊りと同じように音楽を操れるというのが出発点となりました。彼らの身体から出る動きと音楽を作品にしたかったのです。

Le Trou (穴) は二人で踊るソロです。死の間際、まるで穴に落ちるかのように、狂気の世界に陥った父へのオマージュなのです。僕はその悲劇をポジティブな作品に転換したかったのです。

Vivaldis (ヴィヴァルディ) は母へのオマージュ。ダンサーになりたかった母は、ヴィヴァルディの音楽を愛し、音楽との関係がダイレクトな踊りが好きでした。おおらかで、動きが音楽を視覚的に表現している綺麗なダンスを作りました。

フィリップ・ドゥクフレ Philippe Decouflé

振付家・演出家。1983年カンパニーDCA設立。1992年アルベールビル冬季五輪開閉会式を31歳の若さで手がけ、サーカスとダンスが交錯する奇想天外な演出で一躍世界に知られる。1994年『ブティック・ピエス・モンテ』で初来日。2003年日仏中の国際共同製作として『イリス』を日本初演。DCAでの活動のほか、CM・ミュージックビデオや、サーカス集団シルク・ドゥ・ソレイユのショーを演出・振付するなど、ジャンルを横断して幅広く活躍。

Evolution (進化) について。音をサンプリングしてループさせ重ね合わせる手法がありますが、それを映像でできないか、何年も悩んでいたんですよ。今回Loopingという映像処理でそれを実現し、エネルギー的な振りで原始と現代を行き来する作品になりました。

Rは、仏語でエール(空中)とも読める作品。シルク・ドゥ・ソレイユで出会ったスザンヌと一緒に新しい宙吊りを考えました。宙吊りの作品は以前も作ったことがありますが、今回は高さをあまり出さず、三次元でスムーズに動けるシステムに挑戦しました。

——そして、最後にVoyage au Japon (日本への旅)があるわけですね。驚いたのが、「新作短編集」と銘打ちながら、この最後の長めの作品はまるで一つの物語のようになっていたことです。

そうそう、宙吊りのシーンはインパクトが強いので、そのまま終えるか、しっかりと内容のあるものを後に組む必要がありました。それで、日本へのオマージュは最後に持って来ました。

日本への愛着、 カンパニーの生活を投影した作品

——このVoyage au Japonはどんな気持ちで作られたのですか。

日本には長めの滞在も含めて何十回と行っていますが、変わらず一番好きな行き先なのです。行けば行くほど、自分の分かっていない部分が出てくる。それでも惹かれる不思議な国です。日本への愛着はもちろんありますが、日常の3分の2は旅をしている僕らがカンパニーの生活をふりかえった作品であるともいえます。

——着物や古典楽器、そして現代的な要素も出てきますが、あえてドゥクフレ色に染め上げたものですね。

正確さを求めるより、自分たちのイメージを無垢な気持ちでそのまま見せたいと思ったのです。でも一度作ったら、急に不安になりましたよ。日本の文化は豊かで複雑。それに対して敬意を持っていても、全てを理解できていないのを知っている。仕上がりを見て日本人は気を悪くしないかと。それで日本人の友人たちにみてもらっ



Photo©Laurent Philippe

て感想を言ってもらったりしましたね。

この短編には、人混みの動きが踊りにみえたことなど、日本で得た様々な発見を取り入れました。歌舞伎座の公演では、坂東玉三郎さんが扇子を持った腕を伸ばして、顔を背けたまま、扇子を投げて一周したところでキャッチした瞬間を見たことがあります。その衝撃に想を得た所作もあります。そしてボサノバ。昔、表参道を散歩していたら、ブラジル人の格好をした日本人がCDの店頭販売をしていたので買ったんですよ。そのあたたかい音色が日本の現代的な街並みに意外にもじっくりくと知ったのです。

——日本文化のなかで特に心惹かれるものは何ですか。

ナイト・クラブのレヴュー・ショーや宝塚、また歌舞伎といった伝統芸能などが好

きです。言うまでもなく、それらが現代社会との共存しているのが日本の大きな特徴ですよ。テクノロジー化した社会って普通は不愉快なものなんですけど、日本ではそう感じない。技術の中に発明性・遊び心があるからでしょうか。そして何よりも人々に惹かれます。日本人を知れば知るほどその神秘性が深まる。一人ひとりに厚みがあって、いくつもの層で成り立っているように思えます。

今回の作品はオムニバスですが強い愛着とこだわりのある対象がテーマになっています。ある意味、僕にとってすごくプライベートな作品になったのかもしれない。

チケット販売中

フィリップ・ドゥクフレ / DCA
『新作短編集(2017)
—Nouvelles Pièces Courtes』
6.29(金)19:00、30(土)・7.1(日)15:00
彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

[演出・振付]フィリップ・ドゥクフレ
[出演]カンパニーDCA

チケット(税込) 一般前売 S席6,500円 A席4,000円
U-25*(高校生~25歳)前売 S席3,500円 A席2,000円
子ども***(4歳~中学生)前売 S席1,500円 A席1,000円
メンバーズ前売 S席6,000円 A席3,600円

*U-25チケットは公演時、25歳以下の方が対象です。入場時に身分証明書をご提示ください。
**枚数制限あり。3歳以下のお子様のご入場はご遠慮ください(2歳以上の未就学児の有料託児サービスあり)。
※当日券は各席種とも+500円
※A席(サイドバルコニー・2階席の一部)は舞台の一部が見えない場合がございます。予めご了承ください。

販売中【特別チケット】

100席限定
コンドルズ+フィリップ・ドゥクフレ/DCA セット券
チケット(税込) 一般セット10,000円 U-25 6,000円
※S席・前売のみ ※コンドルズ公演の詳細はP21をご覧ください。



Photo©Laurent Philippe

振付家と彫刻家、親子のデュエット

伊藤郁女 KAORI ITO

『私は言葉を信じないので踊る』

伊藤郁女 INTERVIEW

フィリップ・ドゥクフレ、アンジュラン・プレルジョカージュ、ジェイムズ・ティエレ、シディ・ラルビ・シェルカウイ、アラン・プラテル……。
世界の名だたる振付家にその才能を認められ、ヨーロッパを拠点に活動する伊藤郁女。彼女が彫刻家の父とつくり上げ、2015年の初演以来、世界40都市で上演された話題作がこの夏、上演される。

取材・文 ● 高橋彩子 (舞踊・演劇ライター) Photo ● Gregory Batardon



伊藤郁女

Kaori Ito

5歳よりクラシックバレエを始める。NYのアルビン・エイリー・ダンスシアターにて研鑽を積む。2003年フィリップ・ドゥクフレ『Iris』に抜擢。以後、プレルジョカージュの作品に参加するなどフランスを拠点に活躍。シディ・ラルビ・シェルカウイや、アラン・プラテルともコラボレーションを行う。2008年に初の自作を創作し、本作以外にも『Asobi』『La religieuse à la fraise』『Robot, l'amour éternel』など精力的に発表。現在、パリ市内の3つの劇場とレジダンス・アーティストの契約を結ぶなど、飛ぶ鳥を落とすほどの勢いで躍進している。アヴィニョン演劇祭にも参加。2015年SACDより新人優秀振付賞、フランス政府より芸術文化勲章シュヴァリエを受賞。

『私は言葉を信じないので踊る』は、ダンサー・振付家の伊藤郁女とその父で美術家の伊藤博史という芸術家親子による異色の舞台だ。その発端を郁女はこう語る。

「父とは昔から仲が良かったのですが、私が13年間ほど海外で暮らしているため、ゆっくり話をする機会がありませんでした。転機は2013年の冬、私が演出・振付作品『ASOBI』を創作している稽古場に両親が訪ねてきたこと。父が始めたダンサーたちの真似がとても上手だったので、ああ、踊りのセンスがあるのだなと思いました。それ以来、日本に帰る度に、父は中島みゆきをかけて私とダンスをしたいと言うようになり、それなら二人で舞台をやったらどうかと考え、この作品を作ることになりました」

本作の中で一つの鍵となっているのは「質問」。舞台では、娘から父へ、次から次に質問が投げかけられる。それは「どうして私は踊るの?」「私は舞台に何を求めているの?」という独り言のようなものから、「私がいるといつも疲れているのはなぜ?」「なぜ私があげた帽子を被らないの?」「どうして私にできた彼氏をすべて嫌うの?」といった父娘の関係性が伝わるもの、あるいは「死ぬのは怖い?」「あとどのくらい生きたい?」と老いに迫る問いまで、様々。だが、父がそれらに返答することはなく、舞台の中盤まで、二人の対話はもちろん、一緒に動く・組んで踊るといったデュエットも見られない。

「創作にあたって、私は帰国時に父に100個ほどの質問をし、3時間かけて父の回答を録音しました。この録音は舞台の後半で聞こえてきます。確かに舞台上では質問に答えませんが、答えたととしても、言葉では伝えきれないことのほうが多いと思うのです。舞台上の私と父は、見ないようでいて

見ていたり、聞いていないようで感じたり。言葉だけでの会話より、もっと複雑な会話をしています」

狭義の対話やデュエットの代わりに郁女が見せるのがソロ。濃密な内的エネルギーが表出するような踊りにはどこか、海外でButohと評されそうな雰囲気もある。実際、日本からヨーロッパに出て踊る彼女には、東洋的/西洋的といったカテゴライズはしばしばついて回るのではないだろうか?

「私は常に、自分の中から何が出てくるのだろうと考えて踊ってきました。それが日本的に見えたり西洋的に見えたりしたとしても、それは見ている方に任せたいと思っています。色々な振付家のもとで踊り、それぞれまったく異なるものを学びましたが、この作品に繋がっていることがあるとしたら、時間と空間の関係、それから、自分にできるだけ近いところで演技をするということかもしれません。ただ今回、舞台上の父を見る時、どうしても家族としての距離感が出てしまうのは今までにない経験でしたね」

芸術家同士として対峙する

郁女がソロを踊る一方、美術家の父が袖から運んでくるのは自作のオブジェだ。

「舞台において、娘のアイデンティティは踊りなので、父のアイデンティティとして彫刻がほしいと考えました。父に言わせると『椅子は反対向きにすると椅子ではない』。ただの椅子を逆さまに積み上げて作ったこのオブジェは、父の内面を表している気がします。もしかしたら父にとっては、私自身も父が作り上げた彫刻なのかもしれません」

舞台後半には、「リンゴ追分」を皮切りに父娘が幾つかの歌を歌ったり、向かい合い、あるいは並んで踊り始めたりと、それ

までよりも緊密な雰囲気が変わっていく。「歌っているのは、父が好きで歌っていたフランスの歌と、父がよくかけていたギリシャの歌だそうです。この作品を作ったおかげで、そうした父の知らなかった一面をみつけることができました。父にここまで踊りの才能があるとは想像していませんでしたし、ヨーロッパツアーではいつも観客を笑わせていて、そうした笑いの才能も、舞台を通して発見しました。父のほうでも、私の仕事を近くで見て体験することで、何か感じるものがあったと思います」



終盤にはついに(?)二人が手を取り合って踊る場面も。どこかぎこちなく緊張感をはらんだデュエットはなんとも言えず魅力的なので、ぜひご注目いただきたい。「あのシーンで私たちは父と娘としても存在しているし、アーティスト同士としても強く存在しています。共演することで、二人の芸術的感性が非常に近いことがわかりましたし、私は生まれて初めて父をアーティストとして、哲学者として見て、尊重できるようになりました」

舞台を通じて“邂逅”を果たした父娘。作品タイトルからも分かる通り、この舞台には、どれだけ言葉を重ねても表しきれない思いが徐々に溢れていく。その思いを、踊りを、見届けたい。

チケット販売中

伊藤郁女

『私は言葉を信じないので踊る』

7.21(土)・22(日)15:00

彩の国さいたま芸術劇場 小ホール

[テキスト・演出・振付]伊藤郁女

[出演]伊藤郁女、伊藤博史

チケット(税込) 全席指定 一般 4,000円

U-25* 2,000円 メンバーズ 3,600円

*U-25チケットは公演時、25歳以下の方が対象です。入場時に身分証明書をご提示ください。

※演出の都合により、開演時間に遅れますと公演中の入場を制限させていただくことがあります。また再入場できない場合がありますので予めご了承ください。

※終演後アフタートークを行います。

伊藤博史

Hiroshi Ito

東京在住の彫刻家。演出家や舞台美術家として舞台の世界でキャリアをスタートする。1974年に美術の修士号を取得。“ランド・アート”を実践し、主に郊外や自然の中で土や木、顔料などを用い、インスタレーションを創作。広告デザインなども手がける。1997年、フィンランドのラップランド・アートカウンシルから招聘を受け、同国にて滞在制作。1999年にはエビスビールから地下鉄恵比寿駅のインスタレーションを委嘱される。2013年ポルトガルに招聘され、1か月間ポルトガルで滞在制作、展覧会を行う。



小さなパイプオルガン～ポジティブ・オルガンを気軽に楽しむ

祝・第100回!

光の庭プロムナード・コンサート & 大塚直哉レクチャー・コンサート

1段鍵盤の小さなパイプオルガン、ポジティブ・オルガンを身近に感じていただけるよう、オルガンの多彩な魅力に迫る無料コンサート「光の庭プロムナード・コンサート」。

2006年に始まったシリーズは、6月にめでたく第100回を迎えます。

西洋楽器、声はもちろん、和楽器や、ときにはダンスとも共演するアイデア満載のコンサートを、みなさんは何回聴きましたか?

文●大塚直哉 (チェンバロ・オルガン奏者/彩の国さいたま芸術劇場オルガン事業アドバイザー) Photo●加藤英弘

皆様に愛され おかげさまで第100回!

彩の国さいたま芸術劇場の1階に「光の庭」と呼ばれるスペースがあるのをご存じでしょうか。「情報プラザ」とも呼ばれるこのスペースは、円形のガラスを囲む素敵な空間で、なんだか広場のような、水族館のような不思議な場所なのです。このスペースで2006年から年に8回前後のペースで行われてきた「光の庭プロムナード・コンサート」がこのたび100回を迎えることになりました。

ヨーロッパの教会や広場など、オルガンの置かれたところにはいつもひとが集まる、そんなオルガンのイメージを大切に、ぜひオープンスペースでオルガンを楽しんでいただこう、と始まったこのシリーズ、毎回、プロのオルガニストの創意工夫をこらしたプログラムとおしゃべりを楽しんでいただくと40分ほどの無料コンサートを行っています。

彩の国にあるのは、フランス製の「ポジティブ・オルガン (床に置いて演奏するオルガンの意味)」と呼ばれるタイプのオルガンで、小さな箱のなかにびっしりとパイプが並び、奏者の座る椅子の下のモーター

で起こした風を送りこんで音を出すパイプオルガンの一種です。シンプルなようで、しかし奏者によって響き方の変わりととも反応の良い楽器です。また人間の歌声に近いとも言われています。ポジティブ・オルガンは、ソロのほかアンサンブルでも力を発揮する楽器ということもあって、これまでに、ヴァイオリンや歌、フルート、サクソなどのほか、マンドリンやフラメンコギター、尺八、ダンサーなど様々な共演者をプロムナード・コンサートにお迎えしてきました。お芝居仕立てにして、朗読とともにやった回もありました。

演奏が終わった後は、楽器のまわりに人だかりができ、オルガンの中をお見せしたり、楽器の仕組みなどをお話しています。あまりなじみのないはずの楽器なのに、みなさん、ずいぶん楽器と仲良くなって帰られる様子が、毎回印象的です。

オルガンは、きちんとメンテナンスをしてゆけば何百年も持つ楽器で、弾かれ、聴かれながらだんだんと音色も育ってゆきます。以前、一度出演されたオルガニストが、最近ふたたびプロムナード・コンサートで演奏していただき、「だいが育ったね～」と声をかけていただきました。これから先もどのように変わってゆくかとても楽しみです。



第32回 夏休みスペシャル 大塚直哉&熊谷乃理子



第92回 ばらまつりスペシャル 小島弥寧子&天野寿彦



第96回 トワイライト・スペシャル 富田真希&神代 修
写真提供◎さいたま市中央区



第86回 夏休みスペシャル
小野田未奈&石森裕子&藤橋万記



大塚直哉 (オルガン)

Naoya Otsuka

東京藝術大学大学院チェンバロ専攻、アムステルダム音楽院チェンバロ科およびオルガン科修了。「アンサンブル コルディエ」「バッハ・コレギウム・ジャパン」などのアンサンブルにおける通奏低音奏者として、またチェンバロ、オルガン、クラヴィコードのソリストとして活躍。また、こうした古い時代の鍵盤楽器に初めて触れる人のためのワークショップを全国各地で行うなど、後進の育成とバロック音楽の普及にも力を注いでいる。現在、東京藝術大学音楽学部准教授、国立音楽大学非常勤講師。宮崎県立芸術劇場、彩の国さいたま芸術劇場のオルガン事業アドバイザーを務める。「アンサンブル コルディエ」音楽監督。NHK-FM「古楽の楽しみ」案内役として出演中。

チケット販売中

大塚直哉レクチャー・コンサート

J. S. バッハ「平均律クラヴィーア」の魅力
ポジティブ・オルガン vs チェンバロ その1
9.2(日)14:00

彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール

[出演]大塚直哉(オルガン、チェンバロ、お話)
[曲目]J. S. バッハ:《平均律クラヴィーア曲集第1巻》より 第1番～第12番

チケット(税込) 全席自由 2,000円

オルガンをもっと楽しむための 講座&レクチャー・コンサート

この楽器の魅力を多くの人に知ってもらい、また弾く人も埼玉の地で増えるといいな、という思いも込めて、プロムナード・コンサートと並行して始まったのが「みんなのオルガン講座」。「基本コース」では毎年オーディションや抽選で選ばれた20名程度の受講生が、数回のレッスンの後に、涙あり笑いありの発表会(「光の庭」にて)にチャレンジしてくださっています*。また



第98回 石丸由佳&田野村 聡

光の庭プロムナード・コンサート

光の庭プロムナード・コンサート 第100回 100回記念スペシャル

6.30(土)14:00

彩の国さいたま芸術劇場 情報プラザ(1F)

※入場無料

[出演]大塚直哉(オルガン)、
光の庭ヴォーカル・アンサンブル
染谷熱子(ソプラノ)、中山美紀(ソプラノ)、
前島真奈美(アルト)、山下未紗(アルト)、
金沢青児(テノール)、沼田臣矢(テノール)、
黒田祐貴(バス)、松井永太郎(バス)
[曲目]J. S. バッハ:カンタータ第147番より コラール「主よ、人の望みの喜びよ」
J. S. バッハ:モテット第1番「主に向かって新しき歌をうたえ」BWV 225 ほか



第82回 終演後楽器見学

この講座に関連して、オルガンの仕組みをお話しし、試奏していただく「初めて出会うパイプオルガン」や、テーマを決めて、作品のことや聴きどころのコツをお話する「オルガン・レクチャー」大塚直哉レクチャー・コンサート」も毎年、多くの方が参加していただき、「聴き上手」になられている方が増えているなあ、と感じております。ちなみに、今年のレクチャー・コンサート(9月2日)は、バッハの名作《平均律クラヴィーア曲集第1巻》から前半12曲を取り上げ、おしゃべりとともにポジティブ・オルガン、チェンバロでの演奏で聴き比べていただく、珍しいコンサート。もしご興味のある方はぜひ。

第100回は 声とオルガンのハーモニー

さて、第100回を迎える「光の庭プロムナード・コンサート」(6月30日)、今回は原点に帰って、オルガンの周りにたくさんの歌手に集まっていただき、人間の声とパイプオルガンで奏でるハーモニーをお楽しみいただこうと思います。ヨーロッパの教会で歌い継がれてきた古いヴォーカル・アンサンブルの作品、また少し違った響きのものなど、いろいろお楽しみいただこうと思います。ぜひ、会場に足をお運びいただけたら幸いです。

*今年度の基本コースの募集は終了しています。



みんなで行こう、オーケストラの国!

埼玉会館ファミリー・クラシック

夏休み オーケストラランド!

夏休みの旅行はどこに行こうか悩み中のみなさん、埼玉会館にやってくるステキな国に行ってみませんか? オーケストラの国、「夏休み オーケストラランド!」。飯森範親の指揮、朝岡聡の司会、東京交響楽団の演奏で毎夏にお贈りする、聴いて・参加してオーケストラを楽しむ2時間のコンサートです。

Photo ● 加藤英弘

生演奏ならではの楽しさ

いろいろな楽器を持った大勢の音楽家が、指揮者のもとで、心をひとつにして、ひとつの作品を奏でる——それが「オーケストラ」です。さまざまな楽器による多彩な響き、腹の底に響く大迫力の音といったオーケストラの醍醐味は、録音で聴くのもいいですが、生演奏の方が何十倍も楽しめます。そんなオーケストラをいろいろな角度から楽しむ「国」が「オーケストラランド」です。

みなさんをオーケストラランドにお迎える曲は、バレエ音楽《コッペリア》組曲から〈マズルカ〉。フランスの作曲家ドリーブによる、華やかな3拍子の音楽です。ポーランドの舞曲マズルカによる調子のいいリズムを聴いていると、踊りたくなくて、からだ思わず動いてしまうかも。

楽器の名前と音もバッチリ

《コッペリア》を聴いていると、リズム



指揮 飯森範親 ナビゲーター 朝岡聡 ヴァイオリン 村田夏帆 東京交響楽団
Photo © 山岸 伸

チケット販売中

埼玉会館ファミリー・クラシック 夏休みオーケストラランド!

7.28(土)14:00(休憩有り 16:00終演予定)

埼玉会館 大ホール

[出演] 飯森範親(指揮)、朝岡聡(ナビゲーター)、村田夏帆(ヴァイオリン/第71回全日本学生音楽コンクール全国大会小学校の部第1位)、東京交響楽団(管弦楽)

[曲目]

ドリーブ:バレエ音楽《コッペリア》組曲より〈マズルカ〉
小室昌広:ディズニーのメロディーによる管弦楽入門
チャイコフスキー:《ヴァイオリン協奏曲》より第1楽章(ヴァイオリン=村田夏帆)
ドビュッシー(ビュッセル編曲):《小組曲》より第4曲〈バレエ〉
【指揮者にチャレンジ!】ビゼー:歌劇《カルメン》前奏曲から
【みんなで歌おう&演奏しよう!】杉本竜一:Believe(ピリ〜ヴ)
ロッシーニ:歌劇《ウィリアム・テル》序曲

チケット(税込)

一般 S席 大人4,000円 子ども(4歳~中学生)2,000円
A席 大人3,500円 子ども(4歳~中学生)1,500円
メンバーズ S席 大人3,600円 A席 大人3,200円

※本公演は、4歳以上からお入りいただけます。

を刻んでいる楽器は何だろう、メロディーを奏でている楽器は? ときっと思うはず。そんな疑問を解消してくれるのが、《ディズニーのメロディーによる管弦楽入門》です。誰もが知っているディズニーの有名なメロディーを演奏して楽器紹介をする曲です。これを聴けば、初めて見る楽器の名前も音も分かり、オーケストラがもっと楽しくなること請け合いです。

こどもソリストの名演に乞うご期待!

どのジャンルにも若き天才がいますが、音楽もそう。客席の子どもたちと同年代の“こどもソリスト”が大人顔負けの演奏を披露してくれます。今年の“こどもソリスト”は、小学5年生の村田夏帆さん。飯森マエストロも「とても可能性を感じる」という村田さんが弾くのは、ヴァイオリン協奏曲の大作、チャイコフスキーのヴァイオリン協奏曲の第1楽章です。「埼玉会館で小学生の頃の彼女の演奏を聴いた」と10年後、20年後に自慢できるかもしれないステージに、ぜひご注目ください。

オーケストラを指揮できるかも!

通常の演奏会と異なる、オーケストラ



ドならではの楽しみは、みなさんがオーケストラに参加するコーナーです。

ひとつは「指揮者にチャレンジ!」コーナー。誰もが憧れる指揮者に子どもたちが挑む、オーケストラの名物コーナーです。挑戦できるのは、公演当日の抽選で当選した子どもたち。残念ながら抽選に外れても、指揮の振り方は会場全員で学ぶので、客席でも指揮者気分を味わえます。オーケストラの演奏を始めるのも止めるのも、そして、オーケストラの音量・速度・表現を変えるのも、すべては指揮者のひと振り次第。子どもの指揮にピタリと合わせて演奏する東京交響楽団も聴きものです。

そして、もうひとつの参加コーナーは「みんなで歌おう&演奏しよう!」です。参加人数が年々増えている大人気コーナーで、家から持参した楽器をステージ上で演

オーケストラの国のあとはオルガンの庭へ!

第101回 光の庭プロムナード・コンサート オルガンとダンスの夏休みスペシャル!

ポジティブ・オルガン(小型のパイプオルガン)の無料コンサート「光の庭プロムナード・コンサート」8月は、夏休みスペシャル公演。多彩な活躍で注目されるオルガニスト廣澤麻美さん、コンドルズでもおなじみのダンサー近藤良平さんを迎え、オルガンとダンスのコラボレーションをお届けします。何が飛び出すかはお楽しみ! 夏休みの思い出づくりに、ご家族揃ってお出でください。



光の庭プロムナード・コンサート 第101回 夏休みスペシャル 廣澤麻美(オルガン)&近藤良平(ダンス)

8.4(土)14:00 彩の国さいたま芸術劇場 情報プラザ(1F)

※入場無料

[出演] 廣澤麻美(オルガン)、近藤良平(ダンス)

[曲目] 調整中

奏してオーケストラと共演するという、夏休みの思い出の1ページを彩るステージとなります。楽器が弾けない子どもたちもご安心を。歌で参加してくださいね。

大迫力のサウンドを味わおう

バレエ音楽《コッペリア》組曲で始まる今年のオーケストラランドは、バレエと名のついた作品をもう1曲演奏します。今年没後100年のフランスの作曲家ドビュッシーの《小組曲》より第4曲〈バレエ〉。軽快なステップが見えるような曲で、中間部のおしゃれな響きも魅力的です。

そして、最後は今年没後150年のイタリアの作曲家ロッシーニによる、スイスの英雄を描いたオペラ《ウィリアム・テル》から序曲を。チェロが描く夜明けの美しい音楽に始まり、最後はスイス軍の行進曲の迫力ある音楽で締めくくります。

精魂を込めたオーケストラの演奏を、身近に楽しむ「夏休みオーケストラランド!」。大人だけのご来場もちろん大歓迎です。夏休みに華を添える音楽体験を味わいに、ご家族、ご友人とご一緒にお越しください。

スーパー金管プレイヤー3人による 究極のアンサンブル

ベルリン・フィル ブラス・トリオ

世界最高峰のオーケストラ、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団の誇る金管楽器奏者3人が集結!

「ベルリン・フィル ブラス・トリオ」は、トランペット奏者のスーパースター、ガボール・タルケヴィが、楽団の若手2人——ホルン奏者アンドレイ・ズスト、トロンボーン奏者イエスパー・ブスク・ソレンセンを率いて結成した、新しいブラス・トリオだ。

初めての日本公演は、国も時代もさまざまな曲のプログラムで、三重奏はもちろん、それぞれの楽器とピアノとのデュオなど、多彩なアンサンブルが堪能できる。金管楽器ファン必聴のコンサートだ。

文 ● 木幡一誠 (音楽ライター)

国境を超えて名手が集い合い 人材まで育てるオーケストラ

トランペットがハンガリー。ホルンがスロヴェニア。トロンボーンがデンマーク。いったい何かといえば、このコンサートに出演する金管楽器奏者の出身地だ。文字どおり国境を超えて名手たちが集うスーパー音楽家集団がベルリン・フィルなのだ、改めて痛感せずにはいられませんね。

そのリーダーとなるタルケヴィは、今や金管楽器セクションの“顔”としておなじみのベテラン。彼が全幅の信頼を寄せる若手メンバーの2人も、次代を担う大物と呼ぶにふさわしい。長い期間にわたって空席だった第2トロンボーンの座を射止めたソレンセンは、北欧デンマークが生んだ初のベルリン・フィル団員(同オーケストラの前身となった楽団に名を連ねていたフルティスト以来!)として、現地のマスコミにも大々的に取り上げられたという。そし

てバルカン半島出身のズストは、オーケストラに併設された“カラヤン・アカデミー”で研鑽を積んでいる。国境を超えて集う新進音楽家が、留学生としてベルリン・フィルの団員にレッスンを受けながら切磋琢磨するアカデミー。その卒業生が結果的にベルリン・フィルへの入団という栄誉を得ることも珍しくない……。こんなプロセスが見事に機能を果たしているのだ。ドイツが生んだ世界最高峰のオーケストラは、名声の上にあぐらをかいたりすることなく、門戸を広く開け放ちながら優秀な人材を求め、即戦力となる新人の育成機関まで運営することにより、輝かしい伝統の命脈を保ち続ける。たった3人の小さな部分集合から、そんな誇り高き楽団の姿が浮かび上がってくるように思う。

実はしんどい編成のブラス・トリオ でも彼らはへっちゃら

トランペット、ホルン、トロンボーンによるトリオは、吹奏楽の世界でいえば金管五重奏の部分集合にもあたる。おのずと響

きは明るくなり軽快さを増すが、そのぶんプレイヤーの負担も増加する。単純に考えても休みの小節が少なくなるのは自明の理だし、第2トランペットとチューバがない分、高音域のパートにせよ低音域のパートにせよ、旋律を受け持ったかと思えば伴奏にまわり……。という役割分担の変化も数多くこなす必要がある。つまりは想像以上にキツイ。

フランシス・プーランクの《ソナタ》は、この編成のために書かれた名作中の名作。その全編を貫く“サーカス小屋か喜劇の舞台か?”という享楽的な空気感を醸し出す一方で、演奏者は実にデリケートな音のやりとりを交わさねばならない。しかしベルリン・フィルの彼らなら、そんな苦勞をまるで感じさせず涼しい顔で吹き通してしまふことだろう。各声部の応答がくっきりと明確な形で像を結ぶヒダシュ・フリジェシュの《トリガ》では、楽器の違い(国籍の違いはもちろん!)を超えて保たれるフレージングの均質性まで満喫してみたい。そしてブラス・トリオにピアノが加わるケリー・ターナーの《バンデーラ》は、3つの金管楽器が主役の座を分かち合うコンチェ

ルトさながらの楽句と、室内乐的に緊密なパッセージが交錯を重ねていく。それを聴衆の耳に届ける上で、世界最高のオーケストラで常に共同作業にいそんでいる彼らほどの適任者は想像しがたい。

ソロも楽しめる贅沢なプログラム

その各人がソロを披露する演目も組まれているのだから、素晴らしく変化に富むと同時に贅沢なプログラム! トランペットのタルケヴィが取り上げるのは、バロック時代末期から古典派にかけてのスタイルで書かれた協奏曲と、彼の同郷人ヒダシュの技巧的なファンタジーという、対照的な2作品。ベルリン・フィルをはじめとするドイツのオーケストラが標準仕様の楽器としている“ロータリー・バルブ式”のトランペットでソロが聴ける機会はなかなか珍しく、その点でも聴き逃せない。ホルンに備わる牧歌的なキャラクターと“狩の楽器”としてのヒロイックな面を共存させたデュカスの《ヴィラネル》をどう吹きこなすか、若き俊秀ズストへの期待も高まる。そしてソレンセンはシューマンの作品を通じて、“人の声に一番近い楽器”と称されるトロンボーンの魅力と、あたたかみリリック・テノールの歌唱さながらに掘り下げてくれることだろう。

極上の室内楽であると同時に、それぞれの楽器の妙技がとことんまで堪能できるステージ。深く記憶に残る音楽体験が待っています。

アンドレイ・ズスト

(ホルン/ベルリン・フィルホルン奏者)

Andrej Žust

スロヴェニアのロガテツ生まれ。リュブリャナ音楽アカデミーで学び、ルチアン・マリア・スケルヤンク=プレジレン賞受賞。スロヴェニア・フィルハーモニー管のほか、グスタフ・マーラー・ユース・オーケストラ、PMFオーケストラにも参加。ベルリン・フィルに入団し活躍している。

ガボール・タルケヴィ

(トランペット/ベルリン・フィル首席トランペット)

Gábor Tarkövi

ハンガリーのエステルgom生まれ。リヒター・ヤーノシュ音楽院、フェレンツ・リスト教員養成大学、フェレンツ・リスト・アカデミーで学ぶ。ヴェルテンベルク・フィルハーモニー管、ベルリン・コンツェルトハウス管、バイエルン放送を経て、現在ベルリン・フィルの首席トランペット奏者である。



児嶋一江 (ピアノ)

Kazue Kojima

東京藝術大学・同大学院を経て、国際ロータリー財団奨学生として国立ミュンヘン音楽大学留学、同マスターコース修了。ヨーロッパ、日本国内でのリサイタルをはじめ、オーケストラとの協演、ソロ、アンサンブルで幅広い活躍を続けている。東京藝術大学講師、相愛大学音楽学部教授を歴任。



イエスパー・ブスク・ソレンセン

(トロンボーン/ベルリン・フィルトロンボーン奏者)

Jesper Busk Sorensen

デンマークのオーフス王立音楽アカデミーで学ぶ。オーフス交響楽団を経てベルリン・フィルに入団。室内楽奏者として、デンマーク・トロンボーン四重奏団、ベルリン・フィルハーモニー管ブラス・アンサンブルのメンバーとして活躍。デンマーク王立音楽アカデミー名誉教授に任命される。

チケット販売中

ベルリン・フィル ブラス・トリオ

9.30(日)14:00 彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール

[出演] ガボール・タルケヴィ(トランペット)、アンドレイ・ズスト(ホルン)、イエスパー・ブスク・ソレンセン(トロンボーン)、児嶋一江(ピアノ)

[曲目]

- J. S. バッハ:《アンナ・マグダレーナ・バッハの音楽帳》より
- J. B. G. ネルダ:トランペット協奏曲 変ホ長調
- R. シューマン:歌曲集《詩人の恋》作品48より
- R. シューマン:《3つのロマンス》作品28より第2番
- F. プーランク:ホルン、トランペットとトロンボーンのためのソナタ
- P. デュカス:ヴィラネル
- A. プレヴィン:ヴォカリーズ
- F. ヒダシュ:トリガ
- F. ヒダシュ:トランペット・ファンタジー
- K. ターナー:バンデーラ ほか

チケット(税込) 全席指定

一般4,500円/U-25* 2,000円/メンバーズ 4,100円

*U-25チケットは公演時、25歳以下の方が対象です。入場時に身分証明書をご提示ください。

松竹大歌舞伎

平成30年度公文協東コース

芝居に、舞踊に。
夏は歌舞伎で
日本の美を楽しみ尽くす！



『曾我孫子御所染』尾上菊之助の御所五郎蔵 ©松竹

今年の夏は、活躍めざましい尾上菊之助を芯とした、フレッシュな座組の「松竹大歌舞伎」が熊谷にやってくる！

注目は「^{そがもようたてしのごしよぞめ}曾我孫子御所染 御所五郎蔵」。河竹黙阿弥によって書き上げられた本作は、江戸の風景が目に浮かぶような見事な七五調の渡りセリフ、凝りに凝ったドラマによって浮かび上がる切ない恋模様、華やかな場面展開で魅せる歌舞伎の様式美など、見どころ満載の人気作だ。舞台は江戸、不夜城吉原。腰元臯月と不義密通のどがで浪人となった浅間家の家来須崎角弥は、侠客となって御所五郎蔵に、臯月は遊女となる。五郎蔵は、旧主・浅間巴之丞が思いを寄せる傾城逢州の身請けのための金策に奔走するが、どうしても金の調達ができない。それを知った臯月は、自分に言い寄る男から百両をもらい、身をまかせる約束をし——。歌舞伎ならではのドラマチックな物語を、じっくりと楽しもう。

長い布晒を自在に操る、力強きたおやかな舞踊を明朗で華やかな曲調で贈る「近江

のお兼」は、大力の持ち主で漁師を相手に自慢の力で跳ね飛ばすような美しい女の子、お兼が主人公。年頃らしく恋心を近江の名所にかけて明かす純朴な娘心を描くクドキは見どころの一つだ。可愛らしい馬とのユーモラスな掛け合いも楽しい、ワクワクする舞踊。

下駄でタップを踏み鳴らす「高坏」は、コンテンポラリーダンスがお好きな方にもオススメしたい独創的な舞踊劇。同作は六代目尾上菊五郎が、当時アメリカのタップダンスが流行っていたことを受けて作ったとか。主人に命じられて高坏（脚がついた坏）を買いに出た太郎冠者は、それがどんなものかを知らず、高足売の口車にまんまと乗せられ、高足（下駄）を買ってしまい……。太郎冠者が酒に酔って、高下駄を履いて軽やかに踏む超絶技巧のステップは必見！

美しい舞台姿と確かな演技で多くのファンを持つ菊之助、素晴らしい声を武器に次世代の立役を担う坂東彦三郎、若手女方の

期待株として将来を囑望される中村梅枝、ハツラツとした若手花形・中村萬太郎、愛らしい女方として数々の舞台で活躍する中村米吉、愛嬌ある風貌で多彩な役を演じる市村橋太郎、風格と滋味溢れる演技を見せる市川團蔵。充実した顔ぶれの「役者が揃った」歌舞伎公演で、日本の美を堪能しよう。

チケット販売中

平成30年度公文協東コース
松竹大歌舞伎

7.26(木) 昼の部12:30/夜の部17:00
熊谷文化創造館さくらめいと
太陽のホール

[演目]「近江のお兼」、「御所五郎蔵」、「高坏」
[出演] 尾上菊之助、市川團蔵 ほか

チケット(税込)

一般 S席6,500円 A席4,000円 B席2,000円
U-25*(A席対象)1,000円

メンバーズ S席6,000円 A席3,600円

*U-25チケットは公演時、25歳以下の方が対象です。
入場時に身分証明書をご提示ください。

PLAY

『めにみえない みみにしたい』

4.29(日・祝)~5.6(日) 彩の国さいたま芸術劇場 小ホール
5.12(土)・13(日) 吉川市民交流センターおあしす 多目的ホール

布の動きや音や光で想像力を刺激する、4歳から大人まで一緒に楽しめる演劇作品を藤田貴大が創作。心優しい猟師、目に見えない生き物たち、こだまする山びこ……。アクティングエリアの目の前に敷かれた人工芝を子どもが自由に動ける森に仕立て、手の届く距離にいる出演者に「だれ?」「なんで?」と問いかける子もチラホラ。母のぬくもり、取り巻く世界の美しさを肌で感じる物語に織り交ぜられたのは、いつか独立した時に知る人間の孤独。この舞台を体験した子どもたちが大人になって一人で歩き出した時、最後に現れた生まれたことへの祝福のような場面を思い出し、生きる背中を押してくれることを願う。



Photo ©宮川舞子

PLAY

さいたまゴールド・シアター番外公演

『ワレワレのモロモロ ゴールド・シアター2018春』

5.10(木)~20(日) 彩の国さいたま芸術劇場 NINAGAWA STUDIO

結成13年目を迎えた高齢者演劇集団さいたまゴールド・シアターが、岩井秀人(ハイバイ)のもと、新たな表現世界に挑戦。自身に起きた出来事を台本化し自ら演じるという企画で、ゴールドたちは脚本執筆も担当。冷蔵庫を買い換えるエピソード「わが家の三代目」、若き日の友情「友よ」、ゴールドの稽古を懸命にする様子をつづった『無言』、夫と猫への思いを描いた『バミーとのはなし』、戦争体験「荒鷲」、幼い日の原爆投下時の記憶『その日、3才4ヶ月』—— これまでも人生を舞台に乗せてきた彼らではあるが、自分自身のエピソードを懸命に演じてみせる姿には、想像以上の生々しさ、新鮮な驚きがあった。



Photo ©宮川舞子

MUSIC

彩の国さいたま芸術劇場シリーズ企画
「次代へ伝えたい名曲」第13回

モルゴア・カルテット

5.12(土) 彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール

国内有数のオーケストラでも活躍する4人によるモルゴア・カルテットの「次代へ伝えたい名曲」は、彼らの四半世紀の活動をたどるようなプログラム。創設時の思い出の曲というハイドンの「ごきげんいかが」は、まさに優雅にあいさつするように気品あふれるアンサンブルを、ツェムリンスキー第3番は4パートが絡みうごめきながら甘美な音楽を聴かせた。後半はモルゴア十八番の曲で、ショスタコーヴィチ第9番は冷静と情熱を対比した演奏で、特に第5楽章フーガの緻密かつ激しい音楽が圧倒的。メタリカ《メタルマスター》は弦楽四重奏とは思えないサウンドと超絶技巧で、掛け声も加わる完全燃焼の演奏に客席も大いに沸いた。



Photo ©橋田淳史

大ホール 小ホール 音楽ホール 映像ホール 情報プラザ 彩の国さいたま芸術劇場 埼玉会館 埼玉会館

大ホール 小ホール 音楽ホール 彩の国さいたま芸術劇場 埼玉会館 埼玉会館

*U-25チケットは公演時、25歳以下の方が対象です。入場時に身分証明書をご提示ください。

Main event calendar table with columns for month (6月, 7月, 8月), day, and event details including venue, time, and ticket information.

PLAY

さいたまネクスト・シアターO 世界最前線の演劇1 『ジハード-Djihad-』 6.23(土)~7.1(日) 彩の国さいたま芸術劇場 NINAGAWA STUDIO

NBAバレエ団 ショート・ストーリーズ・9 ~バレエ・インクレディブル 6.15(金) 14:00/19:00, 16(土)・17(日) 15:00

CINEMA

彩の国シネマスタジオ 【全席自由・各回入替制・整理券制】 『希望のかなた』

6.6(水)~10(日) 映像ホール 『希望のかなた』 (2017年/フィンランド/98分)



6.28(木)・29(金) 埼玉会館 小ホール 『マダム・フローレンス! 夢見るふたり』



7.25(水)~29(日) 映像ホール 『否定と肯定』 (2016年/イギリス・アメリカ/110分)



8.2(木) 埼玉会館 小ホール 『この世界の片隅に』 (2016年/日本/123分)



彩の国さいたま寄席 四季彩亭 柳家権太楼と気鋭の若手落語会 7.7(土) 14:00 小ホール

平成30年度公文協東コース 松竹大歌舞伎 詳細はP.18

オックスフォード大学演劇協会(OUDS)来日公演 『十二夜』 詳細はP.7

発売日 一般 7.7(土) メンバーズ 6.30(土)

彩の国さいたま寄席 四季彩亭 平成29年度 彩の国落語大賞 受賞者の会 春風亭昇也 10.27(土) 15:00 小ホール

DANCE

イスラエル・ガルバン 『LA EDAD DE ORO—黄金時代』 10.27(土)・28(日) 15:00 大ホール

コンドルズ 埼玉公演2018新作 『18TICKET』 6.2(土) 14:00/19:00, 3(日) 15:00 大ホール

【共催公演】 バンガラ・ダンス・シアター 『Spirit 2018』 『I.B.I.S.』 11.9(金) 19:00, 10(土) 15:00 大ホール

MUSIC

【3公演セット券】【Vol.34 1回券】※予定枚数終了
【Vol.35 1回券】発売日 一般 6.9(土) メンバース 6.2(土)
【Vol.36 1回券】発売日 一般 8.11(土・祝) メンバース 8.4(土)

ピアノ・エトワール・シリーズ
Vol.34 シャルル・リシャル＝アムラン
Vol.35 ダニエル・シュエ
Vol.36 レミ・ジュニエ
音楽ホール
【日時・曲目】
【Vol.34 シャルル・リシャル＝アムラン】
6.10(日) 15:00
【曲目】
モーツァルト：幻想曲 二短調 KV 397 (385g)
ショパン：即興曲 第1番～第3番、幻想即興曲
ババジャニアン：エレジー (アラム・ハチャトゥリアンの想い出)
前奏曲－ヴァガルシャハト舞曲
即興曲、カプリッチョ

ショパン：バラード 第1番～第4番
【Vol.35 ダニエル・シュエ】
10.28(日) 15:00
【曲目】
ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ 第31番 変イ長調 作品110
J.S.バッハ(ブゾーニ編曲)：シャコンヌ
ショパン：3つのマズルカ 作品56
シューマン：アラベスク 八長調 作品18
シューマン：幻想曲 八長調 作品17
※曲順未定
【Vol.36 レミ・ジュニエ】
2019年 1.12(土) 15:00
【曲目】
J.S.バッハ：カプリッチョ「最愛の兄の旅立ちに寄せて」BWV 992
ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ 第23番 へ短調 作品57「熱情」
ショパン：4つのマズルカ 作品17
ストラヴィンスキー：「ペトルーシュカ」からの3楽章
チケット(税込)
【Vols.35・36】
各回 一般 正面席 3,500円 メンバース 正面席 3,200円
バルコニー席 2,500円／U-25* (バルコニー席対象) 1,000円
※3公演セット券、Vol.34は予定枚数終了しました。

販売中
埼玉会館ランチャタイム・コンサート第35回
天羽明恵(ソプラノ)
6.29(金) 12:10(終了予定13:00)
埼玉会館 大ホール
【出演】天羽明恵(ソプラノ)、古藤田みゆき(ピアノ)
【曲目】モーツァルト：すみれ KV 476、
クローエに寄せて KV 524、
《踊れ、喜べ、幸いなる魂よ》より《アレルヤ》
越谷達之助：初恋
山田耕筰：からたちの花 <small>ほか</small>
チケット(税込) 全席指定 1,000円

販売中
埼玉会館ファミリー・クラシック
夏休みオーケストランド!  4歳以上
 詳細はP.14-15
販売中
大塚直哉レクチャー・コンサート
J. S. バッハ "平均律クラヴィア"の魅力
～ポジティブ・オルガンvsチェンバロ その1～
 詳細はP.12-13

販売中
ベルリン・フィル プラス・トリオ
 詳細はP.16-17
販売中
NHK交響楽団
井上道義(指揮)、辻 彩奈(ヴァイオリン)
10.6(土)16:00 埼玉会館 大ホール
【曲目】モーツァルト：歌劇《ドン・ジョヴァンニ》序曲
モーツァルト：ヴァイオリン協奏曲 第5番 イ長調 KV 219「トルコ風」
ブラームス：交響曲 第4番 へ短調 作品98
チケット(税込) 一般 S席 6,500円 A席 5,500円 B席 4,500円
U-25* (B席対象) 2,000円
メンバーズS席 6,000円 A席 5,000円 B席 4,000円
※開演前指揮者によるプレコンサートトークを予定

販売中
ヴァレリー・アフアナシエフ ピアノ・リサイタル
10.13(土)15:00 音楽ホール
【曲目】シューベルト：3つのピアノ曲 (即興曲集) D 946
ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ 第17番 二短調「テンペスト」
ピアノ・ソナタ 第23番 へ短調「熱情」
チケット(税込) 一般 正面席 7,500円
バルコニー席 6,000円／U-25* (バルコニー席対象) 3,000円
メンバーズ 正面席 6,800円
※バルコニー席(U-25)残席僅少。

販売中
バッハ・コレギウム・ジャパン
J. S. バッハ《クリスマス・オラトリオ》
11.24(土)15:00 音楽ホール
【出演】鈴木雅明(指揮)
ハナ・ブランコヴァ (ソプラノ)
クリント・ファン・デア・リンデ(アルト)
ザッカリー・ワイルダー (テノール)
クリスティアン・イムラー (バス)
チケット(税込) 一般 正面席 8,500円
バルコニー席 7,500円／U-25* (バルコニー席対象) 3,000円
メンバーズ 正面席 7,700円
※11月17日(土)関連レクチャーあり。要申込。詳細は財団ホームページをご確認ください。

発売日 一般 6.10(日) メンバース 6.9(土)
埼玉会館ランチャタイム・コンサート第36回
NHK交響楽団メンバー&梯 剛之(ピアノ)
9.11(火) 12:10(終了予定13:00)
埼玉会館 大ホール
【出演】白井 篤(ヴァイオリン)、中村洋乃理(ヴィオラ)、
市 寛也(チェロ)、西山真二(コントラバス)、梯 剛之(ピアノ)
【曲目】シューベルト：ピアノ五重奏曲「ます」より <small>ほか</small>
チケット(税込) 全席指定 1,000円

発売日 一般 6.10(日) メンバース 6.9(土)

アレクセイ・ゲラシメス
パーカッション・リサイタル
11.4(日)15:00 小ホール
【曲目】ゲラシメス：アスヴェンチュラス
クセナキス：ルボンB <small>ほか</small>
チケット(税込) 全席自由 一般 3,300円
U-25* 2,000円／メンバーズ 3,000円
※アフタートークを予定

FESTIVAL

世界ゴールド祭2018
9.22(土)～10.8(月・祝)
彩の国さいたま芸術劇場 <small>ほか</small>  詳細はP.3-6

チケット購入方法
インターネット
 SAFオンラインチケット
で、発売初日10:00から
公演前日23:59まで
オンラインチケット
受付いたします。
 【PC・携帯共通】
http://www.ticket.ne.jp/saf/
メンバーズ 登録のご住所へ無料配送
一般 【クレジットカード決済】 ▶ コンビニ発券
または【コンビニ支払い】
※チケット代他に、店頭発券手数料(チケット1枚につき120円)が必要です。
電話予約

チケットセンター 0570-064-939
10:00～19:00(彩の国さいたま芸術劇場休館日を除く)
※一部の携帯電話、PHS、IP電話からは受付できません。
メンバーズ 登録のご住所へ無料配送
一般 【クレジットカード決済】 ▶ コンビニ発券
または【コンビニ支払い】
※チケット代他に、店頭発券手数料(チケット1枚につき120円)が必要です。
※コンビニ支払い後にチケット配送も承りますが、チケット代ほかに配送料(配送1件につき400円)が必要です。

窓口販売
彩の国さいたま芸術劇場・埼玉会館窓口(10:00～19:00)で直接購入いただけます。電話予約したチケットの引取もできます(メンバーズは登録のご住所への配送となります)。
※休館日をお確かめの上、ご来場ください。

メンバーズ 【口座引落】	その場で
一般 【現金】または【クレジットカード決済】	
	お渡しします。
	※手数料は
	かかりません。

【共催】第3回ピアノデュオ ドゥオール 創造の4日間 in 彩の国さいたま芸術劇場 ―更なる発展へ向けて―

結成14年目を迎え、日本を代表するピアノデュオとして活躍の場を広げている、埼玉県在住のふたり「ピアノデュオドゥオール」が、ピアノ二重奏の日本での発展を促進すべく開催するセミナー。すでにピアノ二重奏に取り組んでいる人を対象にしたコース(デュオ組)と、これから2台ピアノによる二重奏に取り組んでみたいと考えている人を対象にしたコース(ドゥオール組)を設け、最終日には修了コンサートを開催します。

【日時】
8月22日(水) デュオ組
8月23日(木) デュオ組/ドゥオール組
8月24日(金) デュオ組/ドゥオール組
8月25日(土) 15時開演 修了コンサート
【会場】彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
【受講料】
A「デュオ組」おひとり30,000円(デュオとして計60,000円)
B「ドゥオール組」おひとり10,000円
※所定の用紙により要申込。6/30(土)必着。

【8/22-24：レッスン聴講】 【8/25：修了コンサート】
〈1日券〉大人 1,500円
学生(高校生以上) 1,000円／小中学生 500円
親子ペア券(保護者+小中学生) 1,500円
〈4日間通し券〉大人 4,500円
学生(高校生以上) 3,000円／小中学生 1,000円
※1日券は、当該日のみ出入り自由。
※事前予約は不要です。当日受付で直接、料金をお支払いください。(学生の方は受付で学生証をご提示ください。)
詳細はピアノデュオ ドゥオール公式ホームページをご覧ください。http://www.yoshie-takashi.com/seminar.html
【お問合わせ】
ドゥオールセミナー in彩の国さいたま芸術劇場係
seminar@yoshie-takashi.com
Tel・Fax 06-7501-9305
【ノースロードスタジオ/担当：長(おさ)】

INFORMATION

【参加者募集】さいたまダンス・ラボラトリvol.1(2018) 夏期集中ワークショップ

平成29年度「彩の国落語大賞」は春風亭昇也に決定!



『彩の国さいたま寄席～四季彩亭』に出演した若手落語家のうち、年間でもっとも優れた演者に贈られる「彩の国落語大賞」。平成29年度の大賞受賞者は、平成30年1月『林家たい平とおすすめ若手落語会』にて、「壺算」を披露した春風亭昇也に決定しました。3月13日に行われた表彰式では、「実はこういった(賞の)対象になっていることも知らなかった。受賞は色々なことが重なったラッキーパンチ」「師匠(春風亭昇太)に万が一のことがあったら「昇也を呼べ!」と言われるよう頑張りたい」と笑いを交えながら、受賞の喜びを語りました。昇也が2席を披露する「彩の国落語大賞受賞者の会」は、10月27日(土)に開催。受賞を決めた落語会にも出演した林家たい平も祝いにかけてつけ、賑やかな高座になること間違いなし!どうぞお楽しみに!  公演詳細はP.21

「東松山戯曲賞」公募開始

彩の国さいたま芸術劇場が舞台制作協力する、東松山文化まちづくり公社主催「平成家族物語」舞台芸術によるまちづくりプロジェクト第1弾として「東松山戯曲賞」の公募が開始しました。選考委員には劇作家の岩松了氏、岩崎正裕氏、桑原裕子氏、瀬戸山美咲氏と彩の国さいたま芸術劇場や東松山市にゆかりのある顔ぶれが並びます。応募受付は8月31日(金)まで。詳細は「東松山戯曲賞」ホームページをご覧ください。http://www.pac.or.jp/hfs.html

お問合わせ (公財) 埼玉県芸術文化振興財団 サポーター会員担当 TEL048-858-5507

サポーター会員
お問合わせ (公財) 埼玉県芸術文化振興財団 サポーター会員担当 TEL048-858-5507
(公財) 埼玉県芸術文化振興財団は、演劇、ダンス、音楽を中心に、この劇場でしか見られない最高の作品を提供できるよう、作品づくりに努めています。こうした財団の活動にご理解、ご支援をいただいているのがサポーター会員の皆様方です。(2018.5.15現在／一部未掲載)

㈱と野フードセンター／㈱亀屋／㈱松本商会／㈱香山壽夫建築研究所／埼玉新聞社／埼玉りそな銀行／㈱パシフィックアートセンター
㈱アサヒコミュニケーションズ／FM NACK5／カヤバ システム マシナリー㈱／㈱タムロン／㈱十萬石ふくさや／森平舞台機構㈱
東芝エルティエエンジニアリング㈱／埼玉トヨタ自動車㈱／武蔵野銀行／浦和ロイヤルバインズホテル／アルピーノ村／国際照明㈱／埼玉スバル
㈱佐伯紙工所／㈱太陽商工／㈱しまむら／不動開発㈱／ビストロ やま／埼玉縣信用金庫／㈱栗原運輸／彩の国S Pグループ／(有)ブラネッツ／㈱デサン
セントラル自動車技研㈱／丸美屋食品工業㈱／ポラスグループ／ひがし歯科／埼玉トヨペット㈱／公認会計士 宮原敏夫事務所／㈱埼玉交通
サイデン化学㈱／アイル・コーポレーション㈱／五光印刷㈱／旭ビル管理㈱／ヤマハサウンドシステム㈱／㈱エヌテックサービス／㈱クリーン工房
㈱つばめタクシー／㈱サンワックス／㈱綜合舞台／(一財)さいたま住宅検査センター／㈱国大グループホールディングス／オーガスアリーナ㈱
イープラス／六三四堂印刷㈱／(医)櫻会 林整形外科／埼玉県整形外科医会／(医)山粋会 山崎整形外科／サンケイリビング新聞社／㈱三和広告社
㈱セノン／ショッパー／㈱松尾楽器商会／JA埼玉県中央会／日本大学芸術学部／㈱川口自動車交通／㈱ホンダカーズ埼玉／ファミリーマートあすまや
(有)杉田電機／丸茂電機㈱／太平ビルサービス㈱さいたま支店／㈱片岡食品／㈱協栄／㈱ヨコハマタイヤジャパン／NTT東日本 埼玉事業部／チャコット㈱
㈱平和自動車／光陽オリエントジャパン㈱／さくらMusic Office／クワバラ・バンぶキン／駒橋内科医院／東和アークス㈱／テレビ埼玉
日本ビストンリング㈱／金井大道具㈱／国立大学法人 埼玉大学／㈱七越製菓／ビーンズ与野本町／(一社) 埼玉県経営者協会／㈱コマーム
㈱原一探偵事務所／飯能信用金庫／川口信用金庫／青木信用金庫／㈱和幸楽器／新日本ハウス㈱／大栄不動産㈱／相川宗一／㈱ハイデイ日高
浦和実業学園中学・高等学校／三井隆司／大和証券㈱／AGS㈱／㈱ジャスト／㈱ワイイーシーソリューションズ／白神久吉／医療法人青木会
むさし証券／三菱UFJモルガン・スタンレー証券㈱／㈱シルバードエンタルラボラトリー／㈱エスポイント／藤信地所㈱／津田工業㈱
㈱積田電業社／ポートピア岡部・栗橋／中央税務会計事務所／㈱東京コーン紙製作所／トヨタカローラ埼玉㈱／放送大学埼玉学習センター
GARO DAYHAPPY／㈱有村紙工／(医)たかだクリニック／SMBC日興証券㈱／㈱アステック／(有)加藤工業

お問合わせ (公財) 埼玉県芸術文化振興財団 サポーター会員担当 TEL048-858-5507

【参加者募集】さいたまダンス・ラボラトリvol.1(2018) 夏期集中ワークショップ

彩の国さいたま芸術劇場では、2018年度シーズンからダンス表現の探求と作品創作を目的とする「さいたまダンス・ラボラトリ」プロジェクトを開始します。第1弾は8月1日からの10日間、1日6時間の集中ワークショップを実施。本プロジェクトをリードする講師／ナビゲーターはダンサー・振付家として世界を舞台に活躍する小尻健太と湯浅永麻。最終日には公開リハーサルも予定しています。

【日程】8月1日(水)～8月11日(土・祝)
※休講日8/6(月) ※8/11(土・祝)公開リハーサル
【時間】13:00～19:00
〈タイムスケジュール&プログラム〉
①13:00～14:00 (60分) ウォームアップ&テクニクック
ラス 講師：湯浅永麻・小尻健太
②14:15～16:15 (120分) 湯浅永麻によるアトリエクラス
(インプロビゼーション／クリエイションワーク)
③17:00～19:00 (120分) 小尻健太によるアトリエクラス
(イリ・キリアン レパートリー／ムーブメントリサーチ)
〈8月11日(土・祝) 公開リハーサル〉16:30～17:45
①イリ・キリアン レパートリー
②アトリエクラス成果発表
③「Breakaway」より抜粋 (振付・出演：湯浅永麻、小尻健太)
④ ポストーク

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 大稽古場
【参加費】25,000円 【定員】20名
【対象】15歳以上35歳未満のダンス経験者・中級以上
※原則、全日程参加できる方
※対象外の年齢の方は相談可、ダンスのジャンルは特に問いません。
【申込締切】6月15日(金) 必着
応募詳細等は財団ホームページをご覧ください。
【お問合わせ】彩の国さいたま芸術劇場(舞踊担当)
Tel.048-858-5506 Mail.workshop@saf.or.jp



はやしや・ひこいち
1989年、林家木久蔵（現・木久扇）師匠へ入門。2000年に若手落語家の登竜門と呼ばれる『NHK 新人演芸大賞落語部門』で大賞を受賞。2002年に真打昇進、全国各地で独演会を展開中。アウトドア派として国内外の山や川を制覇中。

落語と釣り、 意外な共通点

文と写真 ● 林家彦いち

仕事ついでになんとか釣りや登山をくっつけられないかと画策することがあり、今回の春の高知もそうである。「釣り三昧」と「昇太、彦いち二人会」。多忙な先輩も、頭を抱え予定調整で苦戦したようだ。ここは一つお役に立とうと「釣りですよ。土佐のあの『ハイカラ釣り』ですよ」と呪文のように耳元でつぶやき続けた。

せっかく行くのだからと、吉野川上流で溪流釣りの提案も。もう一つ真鯛釣りも予定に組み込んで、公演1回、釣り3回という夢のような行程。

盛況だった公演後はいよいよ「ハイカラ釣り」。底の浅い和船で2メートルほどの専用の竹竿を使用。原則右手で竿を持ち、釣り糸も一緒に握る。魚がかかると糸がシューっと出ていくので、手のひらが焼けるように熱くなる。「アチッ！ どうすればいいんですか？」と以前船長に尋ねたことがあるのだが、「我慢です」と言われた。これに慣れてくると面の皮ならぬ手の皮が厚くなり、堂々と微調整が出来るようになるとのこと。我々は二人そろって和船に乗り込み、櫓を漕ぐ人と三人で出発したのだが、通常スタイルは船に一人らしい。空いた左手で櫓を漕ぎながら、右手で釣りをするというのだ。船全体を竿のようにしならせて魚とやりとりするのである。

現代では釣りも例外なく、日進月歩の世界。明治に登場したハイカラという言葉に冠しているだけあって、当時はさぞかしお洒落な釣りだったのだろう。あまり深くない湾内でエンジン音を響かさず、ゆるやかな潮に流されながら釣れば餌が自然に流れてゆく……。今でも浦戸湾ではこの



釣りのスタイルが合理的な面もあると聞いた。

そういえば落語という芸能も、漫才師などが着物から洋服に変わってゆく過渡期、着物を着て喋ることを選んできた結果、いろんな人物を演じられる合理的な芸能になった……あれ!? 似てるかも。

さしずめ「ハイカラー人喋り」である。

この日は前日の大雨で湾内に真水が入り、潮の流れも早く、釣りにはなかなか厳しい条件。こうなると和船の上で噺家同士隣り合い、お喋りが止まらない。しまいには、落語の中に櫓を漕ぐ場面があるので、やってみたくて交互で漕がせてもらう。フムフム。

櫓を漕ぐ仕草が上達した。魚……は大物を釣ったような仕草だけは完璧だった。



演劇担当 @Play_SAF
舞踊担当 @Dance_SAF
音楽担当 @Music_SAF



彩の国さいたま芸術劇場 @saitamaartstheater
埼玉会館 @saitamakaikan



Instagram 埼玉会館 @saitama_kaikan

www.saf.or.jp

埼玉アーツシアター通信 第75号 (6月-7月)

平成30年6月1日発行 (隔月1日発行)

発行人: 竹内文則

発行: 公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団

〒338-8506 さいたま市中央区上峰3-15-1 TEL.048-858-5500

